参考資料１

平成 27 年度　ヒグマ保護管理方針検討会議（総括会議）資料 2-2 別紙

代表的な問題個体の行動履歴

① 個体識別 ID「ルッチー」（13B01）の行動履歴

● ゾーン５への侵入履歴等を考慮して駆除するまでに、8 日間で計 8 回の追い払いを実施。

2013 年

１）5/30 5:00　真鯉オタモイ沢付近の国道上をうろつく単独のヒグマを一般が目撃。対応なし。

２）5/30 9:15　真鯉オシャマップ川付近の国道海側に出没、追い払い（ゴム弾 2 発、花火弾 5 発）。対応①

３）5/30 14:00　真鯉オシャマップ川付近、一般から目撃情報が入るがヒグマの姿なし。

４）5/31 6:50　真鯉エゾシカファーム付近に出没。ゴム弾 1 発、花火弾 4 発で追い払いを実施。対応②

５）6/1 10:20　オシンコシントンネル付近、国道海側にいる個体を轟音玉 2 発で追い払い。対応③

６）6/1 16:40　オシンコシン旧道分岐ウトロ側付近、山側斜面にいた個体を轟音玉 1 発で追い払い。対応④

７）6/3 15:50　真鯉漁業部付近で目撃情報が入るがヒグマの姿なし。

８）6/3 17:45　真鯉漁業部付近、国道海側にいる個体を花火弾 3 発で追い払い。対応⑤

９）6/5 7:30　オンネベツ河口、国道海側にいる個体を轟音玉で追い払い。対応⑥

10）6/5 13:40　弁財崎付近、国道海側にいる個体をゴム弾 1 発、花火弾 1 発で追い払い。対応⑦

11）6/5 17:30　弁財崎付近の海岸での目撃情報（自然公園財団、6/6 情報入手）

12）6/5 18:40　ウトロ西住民より目撃情報。住宅脇山側からいるかホテル横を通過し、海岸線へ。最終的に道の駅至近の海岸線までの侵入を確認。轟音玉 1 発で追い払いつつ、亀岩経由で弁財崎までクマを誘導（～20:00）。対応⑧以後、駆除を視野に入れた対応決定。

13）6/6　7:00　場所詳細不明の海岸線での目撃情報あり（自然公園財団経由 2 次情報）

14）6/6 14:30　弁財崎～ウトロ間の海岸線での目撃情報（バスより、16:00 情報入手）。

15）6/6 16:04　オシンコシンの 1km 手前山側での目撃情報が警察に入る。 対応⑨
捜索中に弁財湾の海岸線にいるクマを発見。16:30 にウトロ駐在とも合流。特徴からルッチーと判断。当初銃所持者 1 名体制だったため追い払いを検討したが、協議の結果、銃所持者 2 名体制に増員した上での駆除を決定。見物人の人払いなど全ての体制が整った時点で、海岸線にいる当該個体にライフルで発砲、駆除した（17:00）。

● 目撃情報 15 件、対応出動 9 回、追い払い 8 回（ゴム弾 4、花火弾 13、轟音玉 5 使用）。

出没個体の特徴

・オス亜成獣。

・頭部が灰色、前足の付け根の腹側に白い斑あり。左右に分かれたツキノワあり。

写真 1. 真鯉地区に出現したルッチー

写真 2. 同左

・駆除後の計測値等：オス、体重 139 kg、前掌幅 14.5 cm。

・知床財団における個体（標本）ID： 13 B 01

・道環科研 ID： # 5777

・2010 年 斜里町ルシャ地区生まれ

・北大獣医学部下鶴准教授らの DNA 解析により、以下の個体との血縁関係が判明。

父：マサミ MS（ルシャ出現個体、2014 年 9 月羅臼町岬町地区で駆除）

母：リッチ RI（ルシャ出現個体、2015 年も生存）

同腹子：レッチー（オス、2013 年 4/22 朝 羅臼町市街地中心部大横断などの履歴あり。
4/26 羅臼町海岸町地区で駆除、体重 120kg。道環研 ID：5326）

② 個体識別 ID　”ＢＳ”（14B02）の行動履歴

● 集落住宅地（ゾーン４）への接近を根拠に駆除するまでに、3 年間で計 118 回の追い払いを実施。

2012 年

・7～10 月、岩尾別川（町道岩尾別温泉道路）沿いに少なくとも 2 組の兄弟グマ（推定 0～1 歳）が頻繁に出没。

・これらのヒグマはほとんど人を恐れず道路沿いや宿泊施設周辺に 1 日に何度も出没し、その度に観光客やヒグマ撮影目当てのカメラマンが周囲に集まる状況となった。ヒグマの直接的な追い払いの他、観光客やカメラマンに対して、ヒグマに接近したり餌をやったりしないよう注意喚起を実施。

※吻部の傷や胸部斑紋などの特徴から、この時の 2 組 4 頭のうち、主に 9～10 月に確認されていた「赤毛兄弟」のうちの大きい方が BS と同一の可能性大。

・度重なる追い払いに対してほとんど行動改善の様子が見られなかったため、関係機関（環境省、斜里町）と協議の上、移動放獣のための捕獲を試行。

①7/27～　箱ワナによる捕獲（夜間は扉閉鎖）を 1 週間試行 → 失敗

②9/4-5　麻酔銃による捕獲を試行。薬剤が効いたまま深いヤブの中に逃走され、安全を重視して追跡断念 → 失敗

・以後、追い払いを繰り返しながらの監視継続に方針変更。BS（？）は 10/14,16 に岩尾別ふ化場内に侵入し、蓄養池内のシロザケを物色した。11 月以降は目撃激減。

写真 3. 岩尾別ふ化場の蓄養池内に侵入した BS（2012 年 10 月 16 日）

● 9～10 月に目撃情報 54 件以上、対応出動 40 回、追い払い 26 回（ゴム弾 0、花火弾 4、轟音玉 0、駆除雷 7 以上を使用）。

2013 年

・9～11 月、岩尾別川（町道岩尾別温泉道路）沿いに 2 頭のヒグマ（推定 1～2 歳）が頻繁に出没。まれに一回り大きいメスがもう 1 頭加わり、3 頭で行動することもあった。

・これらのヒグマはほとんど人を恐れず道路沿いに 1 日何度も出没し、その度に観光客やヒグマ撮影目当てのカメラマンが周囲に集まる状況となった。ヒグマの直接的な追い払いの他、観光客やカメラマンに対して、ヒグマに接近しないよう注意喚起を実施するが、効果希薄。

・駐停車中のカメラマン等の車両により、町道の渋滞や大型車が通行不能になる状況が頻繁に発生した。

※2 頭のうちオスの方を BS、メスの方を EX と命名。BS は 9/9 にダートバイオプシーによる DNA サンプル採取に成功。

・度重なる追い払いに対して、ほとんど行動改善の様子が見られなかった。特に BS は人間を避けない傾向が強かった。

＜2013 危険事例抜粋＞

１）9/6　9:30　岩尾別温泉ホテル地の涯の駐車場付近で、駐車車両（レンタカー）に手をかけ、窓から車内をのぞきこむ行動。

２）9/15 9:45　町道岩尾別温泉道路分岐点付近で、複数のカメラマンが約 15m の距離で接近撮影、BS は気にする様子なし。駆除雷・轟音玉による追い払いにほとんど反応せず。

３）9/21 8:00　岩尾別温泉道路にて、観光客が子供（人間）を抱いたまま、樹上でドングリ採食中の BS を直下から見上げていた。また周辺のカメラマンから、「2 頭のうち 1 頭（BS？）がこちらに向かってくることがある」との聞き取り情報を得る。

４）9/29 13:40　岩尾別温泉道路にて、「ヒグマが車体を舐めていた。それを接近撮影している人たちがおり、注意したが誰も聞いてくれなかった」との通報が観光客から入る。現着後、付近で BS を発見。BS の 10m 横にカメラマン、20m 前方に登山者がいた。

５）10/4 10:50　岩尾別温泉道路にて、BS を取り囲んで進路を塞ぐようにして複数のカメラマンが接近撮影していたところ、サケをくわえた BS がそのまま人の方に進行し、慌てたカメラマンが転倒。BS は一瞬立ち止まったがそのまま進路変更せず、カメラマンの間を通過。

６）10/28 8:00　岩尾別温泉道路沿いでパトロール中に BS を発見。声かけするとむしろ対策員に接近してきたため、ゴム弾で追い払い実施。

写真 4, 5. 無人の駐車車両に手をかけ（左）、窓をのぞきこむ（右）BS（2013 年 9 月 6 日）

写真 6. ヒグマ対策員の声かけに反応し、逃走せずにむしろ接近してきた BS. 体格が 2 ヵ月で急成長（2013 年 10 月 28 日）

● 9～11 月に目撃情報 87 件（疑い例を含めると 175 件以上）、対応出動 89 回、追い払い 81 回（ゴム弾 30、花火弾 60、轟音玉 3、駆除雷 34 を使用）。

2014 年

・4/16 から、国立公園内幌別台地上の道道沿いで目撃され始める。4/29 以降は国立公園外へ出て、斜里町の半島基部方向への移動開始。5/10 に峰浜地区で駆除された。

・移動中、国道沿いでエゾシカを捕獲する、国道上を長時間歩く等、国立公園内と変わらぬ行動を繰り返す。地域住民が住宅前と国道上でクマスプレーを噴射した事例（4/29, 5/9）も含めて何度か追い払いを受けるが、行動改善は認められず、そのまま駆除に至った。

＜2014 危険事例抜粋＞

１）4/29 10:00　ウトロ香川（市街地電柵外）の住宅前のタクアン小屋の臭いを嗅いでいる BS を住民が発見。親族男性が車で接近して声かけするが、ヒグマは動かず。やむなく車から下りて距離 5～10 m からクマスプレーを噴射。BS はゆっくりと移動し、ロスト。

２）5/5 14:30　真鯉地区の国道のすぐ山側、道路から見える位置（エコロードフェンス外）にて BS がエゾシカを捕殺した後、土饅頭にして食べながら長時間滞留。ゴム弾等による追い払い後、シカ死体を回収。死体を探すような行動をしながら再出没（17:00～17:30）したため、確認させた後再度追い払いを実施。

３）5/6 14:00　オチカバケ川右岸（国道近く）で投棄されていたゴミをあさっていた。対策員に気付くとすぐに逃走。その後すぐにゴミを回収。

４）5/10 14:10　峰浜地区で住宅付近の国道上や休業中のカフェ駐車場等を徘徊。国道山側のヤブ内に入ったところで猟友会員により駆除。

写真 7．プユニ岬（4/21）

写真 8．真鯉でエゾシカを食べる BS（5/5）

● 4/16～5/10 に目撃情報 15 件、対応出動 12 回、追い払い 11 回（ゴム弾 9、花火弾 25、轟音玉 1 を使用）。

参考 URL：　知床財団ホームページ内 http://www.shiretoko.or.jp/seeds_info/

出没個体の特徴

・オス亜成獣。
・頭部に金毛、やや細くて淡い胸部斑紋（ツキノワ）あり、吻部に古傷あり。

・駆除後の計測値等：オス、体重 92 kg、前掌幅 13.5 cm。
・知床財団における個体（標本）ID：　14 B 02
・道環科研 ID：　# 7366

・2011 年斜里町岩尾別地区生まれ？

・北大獣医学部下鶴准教授らの DNA 解析により、BS は以下の個体との血縁関係が判明。
　父：13B08（2013 年 8 月ウトロ高原地区農地で駆除）
　母：07B17（2007 年 7 月五湖檻で学捕、生存？）

　EX（メス、別紙 3）は、同年齢（？）の母親違い。父親は 13B08 で共通。異母姉？
　12B18（メス、2012 年 8/31、岩尾別温泉でホテルのゴミ箱を破壊して生ゴミを食べたため駆除。死亡時 2 歳 or 3 歳？、体重 72 kg）は、母親が 07B17 で同じ（異父姉）。
　# 0786（メス、2010 年 7/26、羅臼町共栄町地区で住宅地脇の海岸線を延々と歩き駆除。死亡時 4 歳、体重 81 kg）は、母親が 07B17 で同じ（異父姉）。

③ 個体識別 ID　”ＥＸ”（15B50）の行動履歴

● 「行動段階２」となって駆除するまでに、3 年間で計 100 回の追い払いを実施。

2012 年

・7～10 月、岩尾別川（町道岩尾別温泉道路）沿いに少なくとも 2 組の兄弟グマ（推定 0～1 歳）が頻繁に出没。この 2 組 4 頭の中に EX が含まれていたかは不明。

2013 年

・9～11 月、岩尾別川（町道岩尾別温泉道路）沿いに 2 頭のヒグマ（推定 1～2 歳）が頻繁に出没。まれに一回り大きいメス（VL）がもう 1 頭加わり、3 頭で行動することもあった。

・これらのヒグマはほとんど人を恐れず道路沿いに 1 日何度も出没し、その度に観光客やヒグマ撮影目当てのカメラマンが周囲に集まる状況となった。ヒグマの直接的な追い払いの他、観光客やカメラマンに対して、ヒグマに接近しないよう注意喚起を実施するが、効果希薄。

・駐停車中のカメラマン等の車両により、町道の渋滞や大型車が通行不能になる状況が頻繁に発生した。

※2 頭のうちオスの方を BS、メスの方を EX と命名。EX は 9/22 にダートバイオプシーによる DNA サンプルの採取に成功。

・度重なる追い払いに対して、ほとんど行動改善の様子が見られなかった。

＜2013 危険事例抜粋＞

１）9/22 16:10　岩尾別ユースホステル（YH）脇の林内でマスを食べている EX を確認。距離 23 m でダートバイオプシー成功。ダート命中後も遠くへ逃げなかったため、声かけと駆除雷で追い払い実施。しぶしぶ斜面上部へ登って行きロスト。

２）10/10 7:40　岩尾別 YH の駐車場内にいる EX を発見し、声かけにより追い払い。20 分後、建物より約 30m 海側でサケを食べている EX を再発見。声かけと駆除雷を使用して再度追い払い実施。YH に注意喚起。

３）11/3 10:20　岩尾別温泉道路にて、多数のカメラマンと観光客が至近距離で EX を撮影。追い払いを実施。

写真 9. 個体識別され始めた時期の EX（2013 年 9 月 3 日）. 顔と体が黒い.

写真 10. 同上（9/3）. ストップ（額段）が浅い.

写真 11. EX（左手前）と BS（右奥）を近い距離から撮影するカメラマンと観光客
（2013 年 9 月 22 日）

● 9～11 月に目撃情報 78 件（疑い例を含めると 164 件以上）、対応出動 57 回、追い払い 57 回（ゴム弾 9、花火弾 27、轟音玉 0、駆除雷 25 を使用）。

2014 年

・4/29 から、国立公園境界の幌別川付近で目撃され始めた。5/6 まではウトロ東の住宅付近（国立公園外、ウトロ市街地電気柵外）で頻繁に目撃されたが、その後は国立公園内に戻った。

・9/13～11/9 に、岩尾別川温泉道路のカメラマン対策を斜里町役場の予算等により実施したが、前年とは異なり、夏～秋の温泉道路沿いでの EX の出没はほとんど無かった。

・秋（9/11 以降）には新たなオス亜成獣（RB）と行動を共にし始め、道路沿いや河口で時々目撃された。

＜2014 危険事例抜粋＞

１）4/29 15:00　ヒグマが幌別川河口から海岸沿いをウトロ市街地に向かって歩いているとの通報があり、現地で EX を確認。威嚇弾で山側へ追い払った。

２）7/18 16:15　岩尾別で道道脇 20m の地点でアリを食べていた。DNA による確実な個

体識別のためダートバイオプシーを実施（後日 EX と確定）。その後花火弾等で追い払ったところ、温泉道路方面の林内へ逃走、ロスト。

３）10/9　8:45　フレペの滝遊歩道でヒグマの目撃情報があり、遊歩道を閉鎖して対応。接近撮影をしている利用者と対策員との間に EX を挟む形になってしまい、しばらく利用者の避難誘導も追い払いもできず。大きく迂回して利用者と合流してから追い払い実施。EX は遊歩道内に 30 分以上滞留していた。

写真 12. 幌別駐車帯（4/29）

写真 13. 幌別川河口でオキアミを採食（4/30）

写真 14. 岩尾別川左岸で草本採食（6/2）

写真 15. 岩尾別の道道沿い（7/18）

● 4/29～10/9 に目撃情報 33 件、対応出動 24 回、追い払い 19 回（ゴム弾 4、花火弾 11、轟音玉 5、駆除雷 3 を使用）。

2015 年

・春先の確実な目撃はなく、6/14 以降、国立公園内の幌別台地東部で目撃され始めた。

・一般観光客やカメラマンに対する警戒心は弱いが、銃を所持した対策員の接近を察知すると、早めに距離をとろうとする傾向あり。

・6 月下旬にはセミ幼虫、7 月にはアリ採食目的で道路沿いに出現し、たびたび目撃された。

・9 月以降は幌別川河口付近に何度か出没していたが、10/18 朝、幌別川河口右岸で釣り人のリュックを漁って中のオニギリと釣り餌（カツオ・サンマ切り身等）を食べたため、「行動段階２」の個体として緊急駆除された。

＜2015 危険事例抜粋＞

１）6/22 12:50　知床自然センター付近の知床横断道路脇のカラマツ林内にてセミ幼虫を採食中の EX を、近くから観光客数名が徒歩で観察していた。観光客を車に戻した後、威嚇弾による追い払いを実施。

２）7/5　16:40　岩尾別台地の通称「カーブ廃屋」付近で、単独ヒグマが道道上を歩いていたところ、追い越そうとして接近した車の車体を、驚いたヒグマが強烈に叩いた事例が発生。現場は EX が頻繁に観察されるエリア内。駆け付けた対策員が間もなく周辺（岩尾別温泉道路）で EX を発見、さらに叩かれる瞬間を別車両から見ていた目撃者の撮影写真に写っていた個体が EX に似ていたため、EX が防衛行動で車両を叩いた可能性が高い。

３）9/16　16:10　EX が幌別川河口に出現し、見物する観光客らの車両約 6 台が幌別橋の上で両側駐車状態となり、通行車両が片側交互通行しか出来ない状況が発生。威嚇弾で EX を追い払い、同時に渋滞整理を実施した。

４）10/17 19:30　夜間に EX らしき単独個体が、ウトロ東（国立公園外）の海岸線をウトロ市街地へ向かって歩いていたため、轟音玉等による追い払いを実施。最終的に幌別川右岸上流方向（国立公園内）へ追い返した。

５）10/18　5:40　釣り人が置いていたリュックを単独ヒグマが奪い、中の食べ物（オニギリ、釣り餌のカツオとサンマの切り身）を食べているとの通報あり。対策員の現着時、河口右岸ではまだ EX がリュックを漁っており、左岸の釣り人の 1 人が動物駆逐用ロケット花火（駆除雷類似品）を使用してもその場を動かない状態。さらに、右岸でリュックを漁るヒグマを横目に、左岸では複数の釣り人がサケ釣りを続けていた。その後 EX は一旦リュックから離れたが、サケを捕食して河口付近で滞留している状態だったため、ライフルによる緊急駆除を実施した（6:39）。

写真 16. 岩尾別橋付近（6/14）

写真 17. 幌別台地東部（6/19）

写真 18, 19. カラマツの根元を掘ってセミ幼虫を探す EX（左）と、その様子を車から下りて徒歩で撮影している観光客（右）（ともに 6/22、知床自然センター付近の知床横断道路）

写真 20, 21. 急接近車両を叩いた EX に似る個体（左、目撃者提供）と、事例発生 30 分後に付近でヒグマ対策員に発見された EX（右）（7/5、岩尾別）

写真 22, 23. 釣り人のリュックを奪って中身を引きずり出している EX（左）と、右岸の EX を追い払おうとロケット花火を撃つ釣り人ならびにクマを横目に左岸で釣りを続ける複数の釣り人（右）（10/18、幌別川河口）

写真 24, 25. EX にリュック内から引きずり出されたオニギリ等（左）と、リュックから離れた後も河口の開けた場所に滞留している EX（右）（10/18、幌別川河口）

● 6/14～10/18 に目撃情報 33 件、対応出動 29 回、追い払い 24 回（ゴム弾 4、花火弾 16、轟音玉 3、駆除雷 0 を使用）。

出没個体の特徴

・メス亜成獣 → メス成獣。
・頭部～頚部に襟巻状に金毛、顔と体全体が黒い、胸部斑紋（ツキノワ）なし、ストップ（額段）が浅く、吻端から額までが直線状に見える。

・駆除後の計測値等：メス、体重 117 kg、前掌幅 12.2 cm。
・知床財団における個体（標本）ID： 15 B 50

・道環科研 ID： # 6392

・2011 年または 2012 年 斜里町岩尾別地区生まれ？（年齢査定未了）

・2015 年 10 月の死亡時点（満 4 or 3 歳）で卵巣に黄体あり、子宮角に胎盤痕なし（性成熟はしているが妊娠歴なし）

・北大獣医学部下鶴准教授らの DNA 解析により、EX は以下の個体との血縁関係が判明。
父：13B08（2013 年 8 月ウトロ高原地区農地で駆除）
母：不明

BS（オス、別紙）は、同年齢（？）の母親違い。父親は 13B08 で共通。異母弟？

その他の異母兄弟姉妹は、15B04（メス）、CA（メス）、JY（オス）、#5344（オス）、CP（オス, 15B36）、KI（メス）、#5322（メス）、#5355（オス）、#5358（オス）。これらの個体の母親は CM、13B03（09B09 = 15B55）など。

④ 個体識別 ID　09B06 親子　の行動履歴

● 母グマには自動車を揺さぶる行動の履歴あり。1 歳の子グマ 2 頭のうちのオスの方（06sp：スポット：15B07 ダート）も、「行動段階２」である証拠は無いが、複数回車に前肢をかけた履歴あり。2015 年 11 月 22 日現在、3 頭とも生存。

2009～2012 年（単独）

・2009 年 6 月 19 日、幌別台地上の捕獲檻で生体捕獲される。その時点で体重 97 kg、3 歳以上と推定。左耳に緑 46 の耳標装着。2009 年 6 月～2010 年 5 月の 1 年間の行動範囲は下図のとおり。ウトロ東～幌別台地～岩尾別で行動していた。

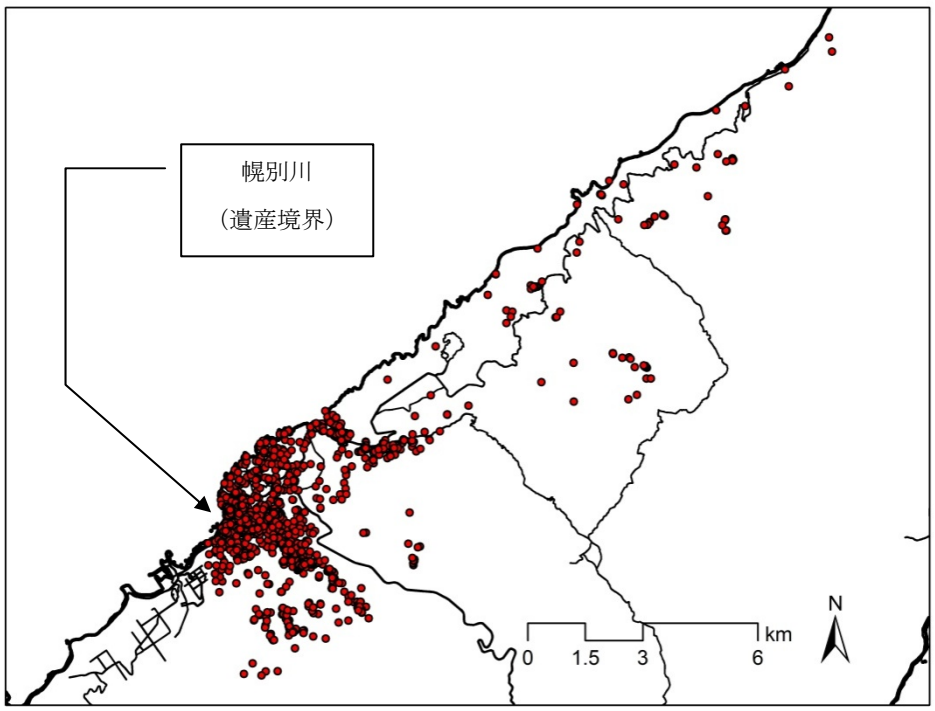


図 1. メス成獣 09B06 の測位点（2009 年 6 月～2010 年 5 月）

・2009 年、道路沿いやフレペの滝遊歩道へ頻繁に出没することを理由に、一旦は駆除判断が下るが、条件が整わず、駆除されずにそのまま越冬。
・2012 年までは単独で行動。

2013 年（親子 → 単独）

・0 歳 1 頭連れの状態で目撃されるが、間もなく単独に戻る。

2014 年（親子）

・0 歳 2 頭連れの状態で度々目撃される。子グマがすぐに木に登って膠着状態に陥るため、強めの追い払いを実施できず。

・度重なる追い払いに対して、ほとんど行動改善の様子が見られなかった。

・母グマの耳標が途中で脱落。母グマのみでは外見からの個体識別が困難となる。

2015 年（親子）

・3 月中旬以降、1 歳 2 頭連れの状態で幌別台地の道路沿い等で頻繁に目撃される。

・ウトロ香川の市街地柵外の住宅周辺（旧しれとこ自然村付近）にも頻繁に出没。

・度重なる追い払いに対して、ほとんど行動改善の様子が見られなかった。

・後述の危険事例発生を受けて、8/19 に環境省・北海道森林管理局・斜里町・知床財団の四者で協議。安全かつ確実性が高い条件下でのみ、09B06 親子については国立公園内も含めて駆除対象とする方針で合意。

・駆除可能な条件が整わず、追い払いを反復。このまま越冬か。

※子グマ 2 頭のダートバイオプシーによる DNA サンプル採取には、6/15 と 6/22 に成功。前者 15B07 ダート：オス（06sp・スポット）、後者 15B14 ダート：メス（06Y）

● 2015 年 3/13～11/22 に目撃情報 115 件（疑い例さらに多数）、対応出動 116 回、追い払い 99 回（ゴム弾 23、花火弾 45、轟音玉 12、駆除雷 0、クマスプレー2 を使用）。

＜2015 危険事例抜粋＞

１）7/17 18:30　知床横断道路幌別ゲートから約 300m 知床峠寄りの地点で、09B06 の子グマの 1 頭が乗用車の匂いを嗅ぎ、車が発信すると一瞬追跡した。母グマともう 1 頭の子グマは、車列を囲むようなコース取りで道路上を移動。

２）7/26 14:10　幌別橋右岸上流側で、至近距離で停車したレンタカーに母グマ（09B06）が前肢をかけ、揺さぶった。

３）8/8　7:27　国道の通称「幌別ヘアピンカーブ付近」にて、09B06 の子グマ 1 頭（オスの方？）が乗用車に前肢をかける状況が目撃される。その直後に到着した知床財団職員が追い払いを実施。

４）8/13 9:00　知床横断道路幌別ゲート付近にて、09B06 の子グマ 1 頭（オスの方？）が乗用車のフロントに貼りついた。当該車両が後退すると、逃げずに車両を見ていた。母グマともう 1 頭の子グマは先行して道路横断していた。

写真 26. 知床横断道路上を歩く 09B06 親子（2015 年 7 月 17 日）.

写真 27. 乗用車のフロントに貼りついた子グマ（オスの方：06sp か？ 2015 年 8 月 13 日）.

出没個体の特徴　（図 2～4 参照）

・メス成獣 ＋ 1 歳子 2 頭。

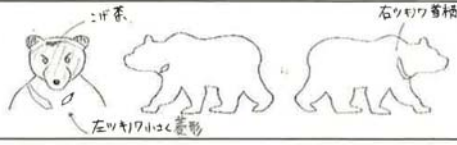
・知床財団における個体 ID： 09 B 06（母）、15B07（オス子・06sp・スポット）、15B14（メス子・06Y）

・道環科研 ID： 生存中のため無し

・子 2 頭は 2014 年 斜里町幌別地区（？）生まれ

ヒグマ個体識別シート

150626 現在

個体 ID	09B06	性別	♀	年齢	成獣
目撃地域	幌別台地・横断道・ウトロ東				
特徴		中央分断ツキノワ左右非対称。 右ツキノワ長く肩まで伸びる。			
血縁関係				DNA	Ⓨ or N
備考					

150702　09B06　幌別河口

140512　09B06　フレペ遊歩道

140512　09B06　フレペ遊歩道

140512　09B06　フレペ遊歩道

図 2.　09B06（母グマ）の特徴

ヒグマ個体識別シート

150626 現在

個体 ID	09B06 の仔（胸前分断ツキノワ・右肩スポット）	性別	♂	年齢	1 歳
目撃地域	幌別台地・横断道・ウトロ東				
特徴		胸前分断ツキノワ。 右肩スポット大。左肩薄いスポット。			
血縁関係	09B06 の 2014 年仔			DNA	Y
備考					

150605　09B06 仔　プユニ岬

150702　09B06 仔　幌別河口

150614　09B06 仔　横断道

150702　09B06 仔　幌別河口

図 3.　09B06 のオス子（06sp、スポット、15B07）の特徴

ヒグマ個体識別シート

150626 現在

個体 ID	09B06 の仔（月の輪枝分かれ）	性別	♀	年齢	1 歳
目撃地域	幌別台地・横断道・ウトロ東				
特徴		螺巻状のツキノワ。 左首横でツキノワ枝分かれ。 頭部金毛。			
血縁関係	09B06 の 2014 年仔			DNA	Y
備考					

150605　09B06 仔　首回り月の輪

150324　09B06 仔　ポンホロ入口

150614　09B06 仔　横断道

150702　09B06 仔　幌別河口

図 4．09B06 のメス子（06Y、15B14）の特徴

・北大獣医学部下鶴准教授らの DNA 解析により、09B06 親子は以下の個体との血縁関係が判明。

09B06 の父：不明
09B06 の母：#5302（メス、2012 年羅臼町岬町地区で駆除）

子グマ 2 頭の父は不明。